

ロシア連邦によるウクライナ侵攻に対する声明

連日目にするウクライナに関する報道に、本当に心が痛みます。本願寺からも以下の通りの声明が出されましたので、皆さまと共有させていただきます。一日も早く終息し、ウクライナの方々に安心した生活が戻ることを願っております。また、世界各地の争いが止み、世界中の人々が平和に暮らせることを切に望みます。

2022年2月24日、ロシア連邦がウクライナへの軍事侵攻に踏み切りました。

ウクライナの各都市では子どもを含めた多くの民間人が犠牲となり、加えて100万人を超える国民が難民として避難を余儀なくされていると報道されています。

私たち浄土真宗本願寺派は、いかなる理由があろうとも、人命を軽視し、武力で一方向的に現状を変更しようとする暴力的な行為に抗議し強く反対の意を表します。

このたびのウクライナへの侵攻だけでなく、世界各地でテロや武力紛争が続いている現実があります。あらためて、あらゆる場での暴力の行使を非難するとともに、一刻も早く対話による平和的な解決がなされ、ウクライナに再び平和が訪れますようお願いいたします。

思想文化や制度による厳しい対立や相互の排除をのり越えて、自他共に心豊かに生きていけるよう、共に努力する先にこそ、恒久的な平和を実現する道が切り拓かれてくるものと確信いたします。

2022(令和4)年3月8日

浄土真宗本願寺派総長 石上 智康



今月の行事予定

2022年 4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 10:00納骨堂合同参拝 13:30グランドゴルフ
3 7:00日曜礼拝 ●	4	5	6	7	8	9
10 7:00日曜礼拝 ●	11	12	13	14	15	16 13:30グランドゴルフ
17 7:00日曜礼拝 ●	18	19	20 13:30法話会 ●	21 【講師】副住職 西原龍哉	22	23 〈来月の予定〉 15日「永代経法要」 ※ 現在休止中の行事については、再開時に予定を掲載致します。
24 7:00日曜礼拝 ●	25	26	27	28	29 昭和の日	30

● 印のある行事は オンライン生配信 いたします
 → <http://www.koumyou.net/tenshin>

天ちゃんの一言

● 先月の地震について、皆さまの被害がないことを念じ上げております。夜中の大きな揺れに恐怖を感じられたことと拝察いたします。今年3・11から11年経過しましたが、いまだ苦しんでいる方、悲しんでいる方がいらっしゃることを忘れず心を寄せていたいと思います。

● 子どもの居場所「駄菓子カフェ くるくる」がやってくる！
 〈日時〉4月6日(水) 11:00～ 〈場所〉天真寺駐車場(参加無料)

● 仏事のご相談、お墓のお悩みはお寺までお気軽にどうぞ
天真寺の墓地「大町やすらぎパーク」に空き区画が一つ出ました。今月中のみ、天真寺門信徒の先行募集期間となります。墓地購入をお考えの方は、どうぞお気軽にお寺までご相談ください。

● 天真寺が管理する「永代合葬墓」があります
 ◆ 「やすらぎ堂」(松戸大町やすらぎパーク内) 管理費なし
 ◆ 「あんのん堂」(親鸞聖人のご廟所・京都大谷本願寺内) 管理費なし
 ◆ 一時預かり「納骨堂」(天真寺2F) 年間管理費 1万2千円

● 天真寺ホームページで住職、副住職のブログを連載しています
 住職のブログ「住職の独り言」 blog.goo.ne.jp/ranman_kn
 副住職のブログ「天真寺通信」 tenshin.or.jp/

入会随時募集 門信徒会

に入りませんか

お寺のお仲間になって、一緒にお参りしませんか。仏法を聞き自らを見つめることは、人生の大切な時間になるでしょう。

毎月、寺報と仏教雑誌『御堂さん』を送付いたします。ご入会お待ちしております。

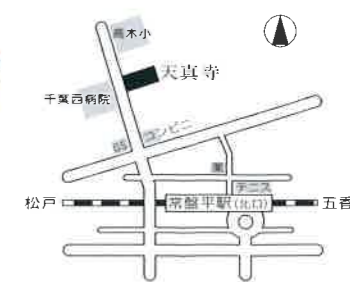
〈年会費〉
 一戸：3千円

〈郵便振込先〉
 天真寺門信徒会
 00130-6-567186

4月8日「花まつり」はお釈迦さまのお誕生日です。お寺に花御堂を用意しますので、一緒にお祝いしましょう。



浄土真宗本願寺派 **天真寺**
 〒270-2251
 千葉県松戸市金ヶ作106番地
 TEL 047-389-0808
 FAX 047-389-0809
www.tenshin.or.jp



オンライン
配信あり

春の法話会のご案内

【日時】 4月20日(水) 13:30

【講師】 天真寺副住職 **西原 龍哉** (本願寺派布教使)

【講題】 「親鸞聖人のご生涯」① 誕生～法然聖人との出遇い

【次第】 おつとめ「正信念仏偈」、ご法話

【場所】 天真寺本堂

法要は感染対策を取って開催いたします。どなた様もご自由にご参加ください。
マスクをご着用ください。茶話会の開催は引き続き見送りとさせていただきますをご理解ください。★ オンライン生配信あり → <http://www.koumyou.net/tenshin>親鸞聖人の時代は、
戦乱・災害が続く厳し
いものでした。苦
難のなか、どのよ
うな生涯を送られ
たのでしょうか。

QRコード

行事
いろいろ

2022年2月

2月20日 法話会

法話会は皆さんでお
経を読み、ご法話を
お聴聞できる貴重な
時間です。ご参加は
どうぞお気軽に、お待
ちしております。

お寺の掲示板

俺が 私が
が「我」に執られているぞ 釈尊
…自分のことばかり、とならないよ
うに気をつけたいですね。

(前頁→) 目の前のおいしいごちそうに惑わされ、まだ大丈夫、まだ大丈夫とってるうちに、飛び上がる機会を失ってしまったのだ。

夕方、鳥の王は群れの数を調べてみると、どうしても一羽足りない。みんなで手分けして捜していると、町の道路で無残に死んでいる一羽の鳥を見つけた。王が近寄ってみると、夕べ、仲間から警告者と名前をつけられたばかりのあのめんどりだった。

王はめんどりを近くの森に運ぶと、手厚く葬り、群れに向かって言った。「めんどりは、ほかの鳥には禁じていながら、自分でそこへ出かけて行って車にひき殺されてしまった。めんどりは自分の欲に殺されたのだ」

(注1)バーラーナシー:漢訳では波羅奈国(はらなこく)と音写。中インドの古国で都は現在のベナレスにあたる。

<参考文献> ずずき出版『仏教説話大系4 ジャータカ物語(1)』



ジャータカ物語 「欲張りなめんどり」

「ジャータカ物語」とは、親しみやすい物語としてお釈迦さまの教えが説かれてい
ます。ジャータカとは、お釈迦さまが前世に菩薩として修行していた時、生きとし生ける
ものを教え導いたエピソードを集めた物語です。バーラーナシー(注1)の都の近く
に、大きな森があった。森の中ほ
どに泉があって、いつも清らかな
水をたたえていた。森の動物た
ちは、皆、泉にやって来て水を飲
んだり、水浴びをしたりした。岸
辺には、一年中草花が咲き乱れ
ていた。ある時、この森に一羽の鳥が生まれた。幼い
ころから聡明で、鳥の仲間から慕われ、成鳥に
なるころにはいつしか鳥の王に選ばれていた。
この王のもとで、鳥たちは何不自由なく平和に
暮らしていた。しかし、生き物とは不思議なものである。不自由
のない平和な暮らしは、やりきれない退屈さ
を呼ぶものらしい。鳥たちは、新しい世界、もっ
とおいしい食べ物、もっと美しい森を求めて旅
をしたいと言い出した。鳥の王は仕方がなく、数千羽の鳥たちを引き
連れ、旅立った。深々と雪をかぶったヒマラヤの近くまでやっ
て来た時、鳥たちは口々に言った。

「なんと美しい景色だろう」

「あの広く輝く雪を一口でも食べることができ
たら、わたしたちの寿命は数倍延びるに違
いない」「ふもとには町もある。きっと、人間たちの食
べる珍しい食べ物にもありつけるだろう」そこで、鳥たちはしばらくの間羽を休めること
にした。鳥たちは思い思いに、近くの山や森や
川へ食べ物を探しに出かけた。群れの中に、一羽の欲張りなめんどりがい
た。めんどりはただ一羽、人間たちの住む町
の方へ出かけていった。町の中をあち
こち飛び回っていると、ある広い道
路の上に、米や豆や果物などのご
ちそうが落ちているのを見つけた。道路の上をひっきりなしに、象や牛や馬に引
かせた荷車が走っていた。ごちそうは、どうやら
その荷車が落としているらしかった。めんどりは目を輝かせてごちそうをついばん
だ。おなかがいっぱいになると、めんどりは考
えた。— こんなにいいごちそうのありかを、仲間
に知らせてやることはない。自分だけの秘密に
することにしよう。しかし、もし気づかれたら、『こ
の場所は、恐ろしい象や馬に引かせた車が
走っている。急に飛び上がることなど到底でき
るものではない。危険だからあそこへは近寄ら
ないほうがいい』と言うことにしよう…。めんどりは群れのいる方へ飛んで
いった。夕方、あちこち飛び回っていた鳥たちが帰っ
てくると、みんなは今日の出来事を話し合っ
た。珍しい食べ物、初めて見る草花や動物な
ど、それぞれが自慢げに話した。めんどりも自
分の番が回ってくると、あのごちそうの話をしな
いわけにはいかなかった。話をしためんどり
はつけ加えて言った。「でも、あそこへは決して行ってはいけ
ない。あそこへ行くことは、自分の命を落とすに
いようなものだ」みんなもめんどりの言葉に深くうなずいた。
「そのとおりだ。いくらおいしいごちそうでも、命
を落としてしまってはどうしようもない」そして、
いい警告をしてくれたというので、みんなは尊
敬の気持ちを込めて、めんどりに
警告者という名前をつけた。ところがその翌日のこと、めんどりが群れから
離れ、町の道路へ出かけてごちそうをついば
んでいると、勢いよく走ってきた荷車に、あっ
という間もなくひき殺されてしまった。(→次頁)